

議 題 ・ 課 題 等 提 案

目 次	頁
I. 桑名市における不登校の現状と取組みについて	1～3
II. 桑名市立図書館の取組みについて	4～9

I 桑名市における不登校の現状と取組みについて

1 はじめに（不登校とは？）

文部科学省の調査では、「不登校児童生徒」とは「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」と定義している。

2 現状と取組

○不登校児童生徒数の推移（全国・三重県・桑名市）

【小学校】 全国・三重県と同水準になってきている

全国			三重県			桑名市		
年度	不登校数	比率	年度	不登校数	比率	年度	不登校数	比率
21	22,327人	0.32%	21	357人	0.34%	21	22人	0.26%
22	22,463人	0.32%	22	350人	0.33%	22	19人	0.23%
23	22,622人	0.33%	23	353人	0.34%	23	25人	0.30%
24	21,243人	0.31%	24	391人	0.39%	24	24人	0.30%
25	24,175人	0.36%	25	489人	0.49%	25	28人	0.35%

【中学校】 全国・三重県より少ない傾向にあり、経年変化もあまりない

全国			三重県			桑名市		
年度	不登校数	比率	年度	不登校数	比率	年度	不登校数	比率
21	99,923人	2.78%	21	1,437人	2.81%	21	78人	1.87%
22	97,255人	2.73%	22	1,481人	2.91%	22	80人	1.92%
23	94,637人	2.65%	23	1,453人	2.83%	23	77人	1.83%
24	91,249人	2.57%	24	1,356人	2.66%	24	80人	1.88%
25	95,181人	2.69%	25	1,336人	2.63%	25	85人	2.0%

※比率→全児童・生徒数に占める「不登校」の比率

平成25年度間の不登校を理由とする長期欠席児童・生徒数はおよそ12万人である。全児童生徒数に占める割合は1.17%（86人に1人）で、小学校は前年度比でおよそ3,000人増え、中学校はおよそ4,000人増えている。桑名市においても同様の結果が見られており、毎年小学校・中学校合わせて100人程度となっている。

○桑名市の取組

①桑名市適応指導教室（桑名市ふれあい教室）・・・桑名市福島AAビル

- ・子どもたちの心身の安定と、自分らしさを育むための援助・指導を行う。
- ・学校生活への復帰に向けた援助・指導を行う。

適応指導教室の状況（平成21年度～平成25年度）

		小学生					中学生			計	備考	
		1	2	3	4	5	6	1	2			3
H	通級数				1			5	6	11	23	木曾岬中1・私立中2を含む
21	復帰数							2	3	10	15	私立中1を含む
H	通級数				1	1		3	6	6	17	木曾岬中1を含む
22	復帰数				1	1		1	4	6	13	
H	通級数		1		1	1		2	3	7	15	
23	復帰数		1		1			1	2	7	12	
H	通級数	1		3			1	3	8	6	22	木曾岬中1を含む
24	復帰数	1		2			1	2	7	6	19	
H	通級数		1	1	2	1	2	2	8	11	28	
25	復帰数		1	1	2	1			6	10	21	

※通級生のうち、およそ4人に3人が学校に復帰、または進学している。

通級生の進路

	県立 全日制	県立 定時制	公立 通信制	私立 全日制	私立 通信制	就職	専門 学校	未決定	計
H21		2	1	2	6				11
H22		2		1	3				6
H23	1	4		1	0	1			7
H24	2	1	1	1	0	1			6
H25	1	2		5	1		1	1	11

※通級生の高校進学率はおよそ90%で、文部科学省の「不登校に関する実態調査」（平成26年7月9日）に示された、不登校生徒の中学校卒業後の高校進学率85.1%を上回っている。

適応指導教室をAAビルに移転したことにより、広さとしては以前より狭くなったが、指導員によるレイアウト等の工夫により、子どもの中には「思ってたより広い」とつぶやく子もいた。また、新しく明るい場所なので、以前よりも掃除を一生懸命したり、物の扱いを大切にしたりする様子が感じられるようになっている。

②その他の取組

【学校訪問】

適応指導教室担当者が年に6回（4月は全校、5・7・11・1月は希望校、9月は不登校で報告のある学校）各校を訪問し情報交換を行ったり相談にのったりすることで、学校と連携しながら早期に対応できるようにしている。

【事例検討会】

教員や心の相談員を対象に、年に3回不登校の事例検討会を開催し、不登校への対応の仕方について研修を行っている。

【Iあいフレンド】

こころに悩みや不安を持ち、登校できずに家にとじこもりがちな児童生徒に対し、保護者からの申込に応じ、臨床心理士の判断のもと、Iあいフレンドを派遣し、本人や保護者に対応する。

※平成23年度に1家庭8回、24年度に1家庭21回行っている。

【教育相談】

教育研究所での教育相談に加え、ふれあい教室でも年間10回臨床心理士に来ていただいて相談体制を整えている。

【心の相談員・スクールカウンセラーの配置】

各学校にも、心の相談員（小学校全校）・スクールカウンセラー（小学校25校・中学校10校）を配置し、相談体制を整えている。

3 課題と今後の見通し

不登校は、「特定の子どもに特定の問題があることによって起こることではなく、どの子にも起こりうることとしてとらえること」が必要である。また、不登校を「心の問題」としてのみとらえるのではなく、「進路保障の問題」としてとらえ、将来的な社会自立に向けての支援が必要である。不登校の問題は、ともすれば不登校になった子どもへの対応が中心となりがちだが、不登校に対する早期発見・早期対応の取組とともに、不登校の未然防止、不登校にならないための対策を講じることが必要である。

さらに、一度不登校になった後でもきめ細かな対応によって、学校復帰をしたり進学したりすることが可能であることや、不登校の問題への対応は学校のみでは限界があることから、適応指導教室の役割は今後ますます大きくなることが考えられる。

Ⅱ 桑名市立図書館の取組みについて

1 現 状

桑名市立中央図書館は、平成 16 年 10 月に日本初の P F I 方式を取り入れた図書館として開館し、今年度で 10 年目を迎える。

同館の P F I 事業は桑名メディアライヴ(株)が施設を設計、建設、所有し、契約で定められた維持管理と運營業務を 30 年間遂行後、所有権が桑名市に無償譲渡される B O T 方式で運営されている。

P F I 事業者である桑名メディアライヴ(株)は 6 社で構成されており、この中に図書館サービスを担当する(株)図書館流通センター（以下「T R C」という。）が含まれている。

サービスの履行については、サービス要求水準を達成しているか確認するため、常に館内の状況を把握するとともに、事業者からの提出書類（業務日誌、日常業務チェック表）に基づく定期的なモニタリング、市民モニター、利用者アンケート等を用いて、多角的な確認を行っている。

一方、図書館のサービス部門を T R C に委ねたことから、市職員は、読書活動、ボランティアとの協働、児童サービスとして「ゆめはま文庫(※1参照)」の貸出しや学校と連携した「子ども読書活動推進事業」の実施など、図書館活用の推進に力を傾けることができている。また、図書館が行う郷土・地域行政資料の収集・保存、展示により、市民や行政各部門が必要とする資料の情報提供を行っている。

市と T R C の協働による同館は、「いつでも、どこでも、だれでも利用できる図書館」を基本理念に、書籍・雑誌・インターネット・データベース・A V などのメディアを提供するとともに古文書のデジタル化を実現し、開館時間の大幅な延長（午後 9 時）、開館日数の増加（年間 300 日）により、利用者数や図書の貸出冊数は旧図書館に比べて大きく増加した。

ふるさと多度文学館は、平成 8 年 10 月に開館し、「本と人、人と人との出会いの広場」をキャッチフレーズとし、あらゆる年代の人が気軽に利用できる蔵書の構築とサービスの提供を行っている。3 館の中では一番歴史が長く、他の施設との連携や交流を図りながら地域性を活かしたイベントや講座を実施し、人々の交流の場となるような図書館運営がされている。

長島輪中図書館は、複合施設ながしま遊館の中心施設として、平成 18 年 4 月に開館した。「くらしの中に図書館を」モットーとし、乳幼児からお年寄りまで多くの人々が出会い、ふれあい、語り合いながら、“情報を得る場”、“やすらぎの場”、“文化創造の場”となることを目指して図書館運営がされている。

また、当館は複合施設の特徴を生かして、他の施設と連携・交流し、地域の根ざした拠点施設を目指している。

市内 3 館の図書館は、平成 18 年 4 月から各館の図書システムがネットワークでつながり、1 枚の利用券で市内 3 館のどこの図書館でも貸出、返却、予約の受付ができるようになった。そして、今年の 10 月からは、図書館システムの更新により、

インターネットを利用した本等の予約機能や延長手続きが充実し、SDI（登録したキーワードに関する新着情報をメールでお知らせする機能）やMyライブラリー（図書館の本を自分だけの「本棚」として登録できる機能）が追加された。

また、中央図書館のインターネット端末では、「ジャパンナレッジ」「日経テレコン」「官報情報検索サービス」などのオンラインデータベースを無料で利用できるサービスを行っており、今回、「^{ディ}1-^ロW」（第一法規が提供する法情報総合データベースサービス）が追加し、充実を図ったので職員の皆様にも是非ご活用いただきたい。

昨年度の桑名市立3図書館の利用状況は、入館者数約89万人（1日平均3,089人）、貸出冊数約121万冊（市民1人当たり8.5冊）（※2参照）と多くの市民の方に利用されている。

※1)「ゆめはま文庫」とは

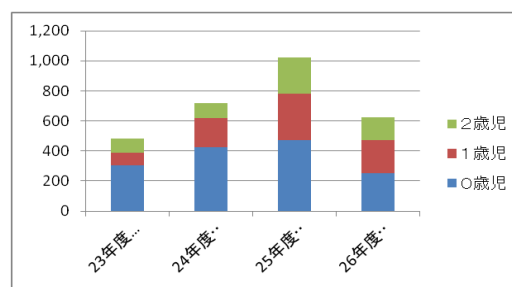
ゆめはま文庫は、住民生活に光を注ぐ交付金(補助率100%)を活用して、平成23年8月から開始した桑名市版の「ブックスタート事業」である。市内の司書、保育士、保健師、文庫運営者、有識者で乳幼児期に適した絵本を選定し、5冊セットしたものを専用のバッグに入れて貸出しを行っている。バーコードやICタグが装備されていないため利用券がなくても利用できる。【合計：250セット】

《利用方法》

利用対象者	市内にお住まいの方
絵本の対象年齢	①0歳のセット(はじめてセット)A・B (2種類) ②1歳のセット(よちよちセット)A・B・C (3種類) ③2歳のセット(わくわくセット)A・B・C (3種類)
貸出期間	2週間
貸出場所	①市内3館の図書館 ②中央保健センター(離乳食教室の後) ③子ども・子育て支援センター「ぼかぼか」(月1回)
返却場所	①市内3館の図書館 ②中央保健センター ③子ども・子育て支援センター「ぼかぼか」

ゆめはま文庫貸出冊数

	23年度 (8月～3月)	24年度 (4月～3月)	25年度 (4月～3月)	26年度 (4月～9月)
0歳児	304	425	470	250
1歳児	86	192	313	224
2歳児	93	100	239	151



※2) 全国の図書館の状況

H24年の図書館統計において、桑名市の貸出冊数は全国10位(10万人～15万人未満の107市区)となっている。

参考「2013年度公共図書館調査」

参考「2013図書館統計」(2012.1月～12月)

(2012.4月～2013.3月)

人口10万人以上15万人未満の市区		
順位	自治体名	貸出数 (千冊)
1	武蔵野市	2,226
2	多摩市	1,837
3	稲沢市	1,671
4	中央区	1,413
5	岩国市	1,360
6	生駒市	1,328
7	箕面市	1,321
8	諫早市	1,303
9	草津市	1,298
10	桑名市	1,261
11	成田市	1,255
12	我孫子市	1,244
13	三田市	1,215
14	半田市	1,201
15	河内長野市	1,127
16	東近江市	1,112
17	刈谷市	1,097
18	国分寺市	1,088
19	長浜市	1,084
20	小牧市	1,082
平均	107市区	759

人口10万人以上15万人未満の市区		
順位	自治体名	蔵書数 (千冊)
1	東近江市	944
2	長浜市	915
3	成田市	856
4	刈谷市	823
5	武蔵野市	793
6	多摩市	784
7	彦根市	730
8	諫早市	723
9	北見市	723
10	箕面市	697
11	飯田市	686
12	中央区	659
13	一関市	627
14	国分寺市	605
15	岩国市	595
16	栃木市	586
17	生駒市	577
18	青梅市	575
19	稲沢市	571
20	掛川市	569
平均	107市区	435

(桑名市)

(537)

三重県内の公共図書館(39館)		
順位	図書館名	貸出数 (千冊)
1	四日市市	885
2	桑名市(中央)	689
3	鈴鹿市	656
4	津市(津)	615
5	名張市	602

順位	図書館名	蔵書数 (千冊)
1	三重県立	849
2	四日市市	409
3	津市(津)	375
4	鈴鹿市	332
5	桑名市(中央)	311

2

課題

課題として主なものは以下の4点である。

- ① 図書館利用者の増加、本の利用拡大に向けた取り組み。
- ② 雑誌サポーター制度(H26年度から新しく開始した制度で、3館の図書館の雑誌に広告を掲載してもらい自主財源を確保する。)の企業へのPR方法の工夫。
- ③ 地域の公共図書館として所蔵する郷土・地域行政資料の収集・保存・活用について。

- ④常に進化するIT技術革新やめまぐるしく変化する社会情勢の中で、必要なサービスを見極め、いかに的確に対応していくか。

3

今後の取り組み

桑名市立図書館では、3館それぞれの特徴を活かしながら生涯学習を支援する中核施設として、また、地域の文化・情報施設の拠点として、より多くの市民の方に利用していただけるよう、自主企画事業の充実、利用しやすい図書館システムなど、時代のニーズに対応できる図書館運営をしていかなければならない。

課題への取組み

- ① 図書館の利用者拡大のため、県助成金等を有効に活用した新しい企画・イベントを計画し、魅力ある図書館運営を図っていく。

《参考》H26年度：県助成金活用の企画

企画テーマ	内 容	助成金種類
図書館の地域コレクションを活用した桑名ブランドの発信	図書館が所蔵する「桑名に関する郷土資料」を小冊子にまとめ、地域へ発信する。 (貝塚・秋山・伊藤・堀田・桜井・北村 各文庫)	三重県図書館協会助成金 (補助率100%)
本とのつながりを深め、利用者拡大に向けた行事の開催 【本と一緒に外国の文化にふれてみよう】	児童書『世界のともだち』に掲載された写真パネルを使った写真展と写真家のトークライブを行い、興味をもったことを図書館で調べて知識を深め、利用者拡大につなげる。	三重県図書館協会助成金 (補助率100%)

- ②雑誌広告事業では、企業へのPR方法を工夫し、募集要項の見直しを行うとともに、図書館施設を利用した新たな広告事業の実施など、自主財源確保に向けた取組みを行う。

《周知ポスターの例》

図書館の雑誌に広告を載せてみませんか！

桑名市立図書館では、図書館の雑誌カバー裏面及び雑誌架に広告を掲載いただける事業者の方を募集しています。

広告を掲載し、地域の皆さんに活動をPRする場としてぜひご利用ください。

◎対象図書館：桑名市立図書館（中央図書館・ふるさと多度文学館・長島輪中図書館）

◎掲 載 期 間：1年間（掲載内容は、期間の途中での変更はできません）

◎掲 載 料 金：各図書館、雑誌1誌につき年間6,000円（1ヶ月あたり500円）

広告内容・申込方法等は、桑名市立図書館ホームページをご覧ください。中央図書館までお問い合わせください。

☎22-0562 / 桑名市立図書館総合HP <http://kuwana-library.jp/>

■桑名市教育委員会事務局 生涯学習課 中央図書館



- ③ 地域で作成され、地域のことを扱っている郷土資料や行政資料は、その地域の図書館が責任を持って収集・整備に努めなければ、他によってカバーしがたいものであり、桑名市の今を語り、これからを考える貴重な素材となる可能性を備えている情報である。桑名力を高めるため、図書館が所蔵する資料を有効に活用した支援ができるよう、今後も引き続き、各行政部門と連携を取りながら郷土・行政資料の収集と保存・公開を行い、積極的に市内外へ情報発信していく。

《参考》H26 年度 行政部門等との連携企画一覧

(実施場所: 中央図書館)

期 間	テーマ	内 容	連携先
2/27～ 4/29	北勢線 100 周年記念 ～北勢線記念グッズ展～	北勢線 100 周年を記念し、コレクターの方からお借りした写真や鉄道グッズと共に図書館の古書コレクションを紹介し、北勢線の魅力を発信する。	商工課
5/29～ 6/24	桑名市公認キャラクター 「ゆめ はまちゃん」を徹底解剖！	桑名市のイメージキャラクターゆめはまちゃんのPR及び「JIMO キャラ総選挙」の上位入賞を皆で応援する。	桑名商工会議所
6/26～ 8/19	戦時下の暮らし展	戦時中に使用されていた道具の現物展示と図書館所蔵の郷土資料を展示。	博物館
8/21～ 9/23	伊勢湾台風 55 周年	本年 9 月 26 日、伊勢湾台風から 55 周年を迎える。伊勢湾台風を今一度ふりかえり、今後の防災対策のあり方について考える。9/21 総合防災訓練の周知も兼ね、伊勢湾台風パネル展と図書館所蔵の郷土資料や関連図書の展示。	防災・危機管理課
9/23	防災サミット資料提供	図書館所蔵資料の貸出展示。	〃
11/9	「第 32 回地域づくり団体全国研修交流会三重大会 桑名市分科会」への資料提供	タブレット端末を利用した新たな歴史案内の実施されるに当たり、古地図等のデータ強化のため図書館所蔵の資料を提供。	政策経営課・プラント推進課

※今後も連携企画予定あり。

- ④ 社会情勢の変化や利用者のニーズ、想定外に発生する事案に対して的確に対応していくために、職員やスタッフの一人一人の資質を向上させていく。常に 10 年先の図書館を見据え、現状に満足することなく緊張感を持ち続けていくことで、より良いサービスが提供できる。いつまでも市民から必要とされ続ける桑名市立図書館づくりを目指していく。



中央図書館



ふるさと多度文学館



長島輪中図書館